

# Happy Turn つちうら

武若苑子(班長) 越川知紘(副班長) 大山倫正 羽場一真 TA: 赤澤邦夫

## 1. 概要

土浦市は、茨城県南部に位置する都市で、人口 142,059 人(平成 26 年 10 月現在)、面積が約 122.99 km<sup>2</sup>である。地形的には北部に新治台地、南部に稲敷台地と 2 つの台地に囲まれた桜川低地と、霞ヶ浦沿岸部という要素からなる都市である。かつては城下町、水戸街道の宿場町として発展した。霞ヶ浦に面しており、江戸時代は水運の拠点地として、戦時中は海軍のまちとして栄えた。

## 2. 現状把握

### 2.1 人口

図 1 で近年の土浦市の人口及び世帯当たり人口を示す。図 1 から土浦市の人口は平成 22 年から減少傾向であり、一世帯当たりの人口も減少傾向である。

図 2 で示される 2010 年度を基準としたコーホート要因法による人口推計によると、2040 年の人口は約 117,000 人となり、高齢人口の割合は 35%を超えることが予想される。また、年少人口の割合は減少傾向である。今後、人口の大幅な減少と少子高齢化が予想される。そのため、人口減少を考慮したマスタープランを考える必要がある。

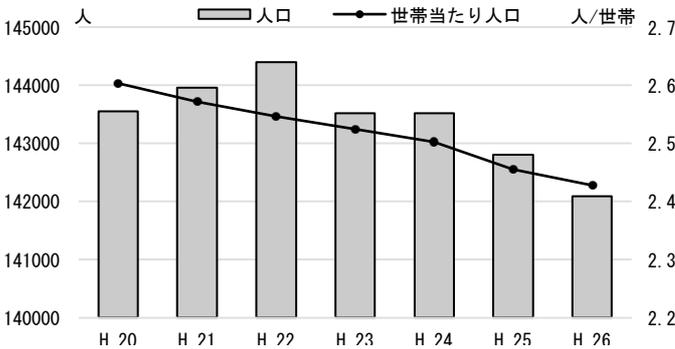


図 1 近年の土浦市の人口と世帯当たり人口

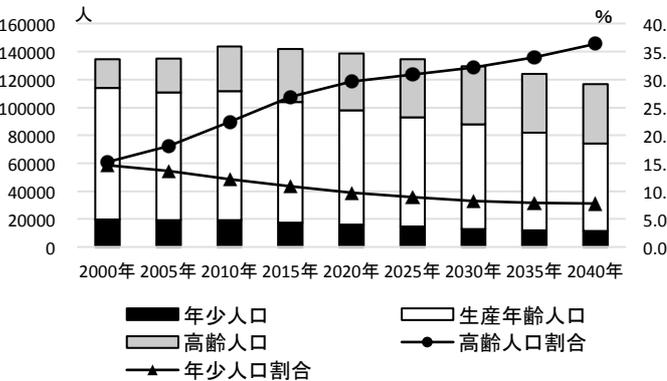


図 2 コーホート要因法による人口推計 (基準年 2010 年)

### 2.2 農業

土浦市の農業は、図 3 より、産出額の構成は野菜 46%、畜産類 19%、米 15%、花き 10%、果実 8%となっている。中でも約 5 割を占めている野菜の内訳として、生産高日本一を誇るレンコンをはじめ、ネギやキュウリ、みつばなどの野菜が栽培されている。

農家数の変化を見てみると、図 4 より、農業人口が減っていることがわかる。特に、兼業農家の減少が大きいこと

が読み取れる。また、図 5 のグラフより、以前に比べ多くの耕作放棄地が出ていることがわかる。その理由として、図 6 より高齢化が挙げられる。

以上より、農業従事者を増やすことは、耕作放棄地の減少を促進と農業に活気を与えることにつながると考えられる。

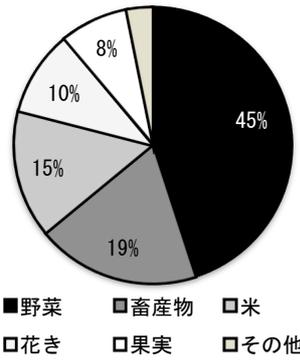


図 3 産出額の構成 (H.18)

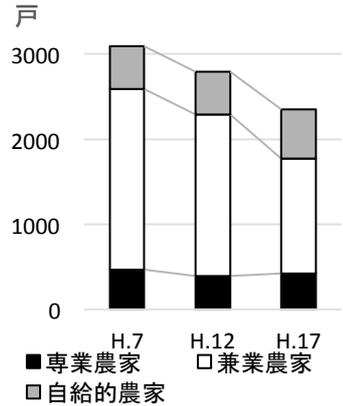


図 4 農家数の推移

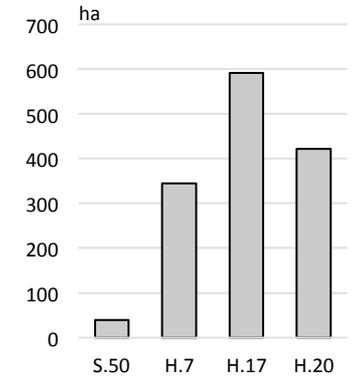


図 5 耕作放棄地面積の推移

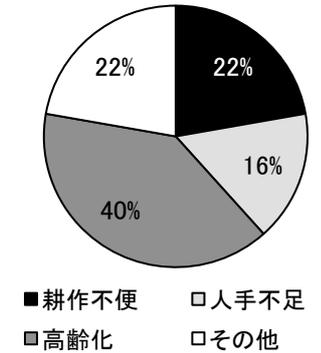


図 6 耕作放棄理由

### 2.3 工業

土浦市内には、「テクノパーク土浦北工業団地」、「東筑波新治工業団地」、「土浦・千代田工業団地」、「おおつ野ヒルズ」がある。表 1 で、各工業団地の未利用率について示す。表 1 より、「テクノパーク土浦北工業団地」、「東筑波新治工業団地」では 2 割ほど分譲地が残っているのに対し、「おおつ野ヒルズ」では 9 割近い分譲地がある。分譲地の有効活用が課題になっている。

表 1 各工業団地における工業団地未利用率

工業団地名	工業用地利用割合 (%)	分譲面積割合 (%)
テクノパーク土浦北	77.0	23.0
東筑波新治	84.4	15.6
おおつ野ヒルズ	14.4	85.6
土浦・千代田	100.0	0.0

## 2.4 商業

図7の年間商品販売額の推移より販売額が減少していることがわかる。図8より、従業者数及び事務所数のいずれにおいても、減少の傾向があることが読み取れる。実際、土浦の中心市街地には、土浦駅周辺のモール505などの商業施設に加え、商店街などの店舗も多く存在するが、それらの中には、空き店舗になってしまっている商店も多いことを実感としても感じることができる。かつて栄えていたモール505が衰退してしまっ原因を探り、今後は空き店舗の有効活用が大きな課題である。

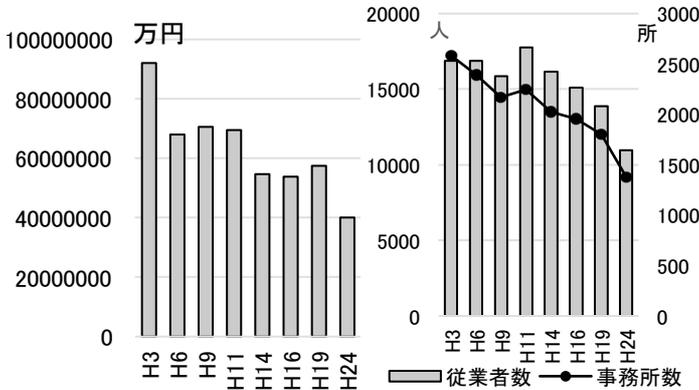


図7 年間商品販売額

図8 従業者数と事務所数

## 2.5 交通

### 2.5.1 道路

国道6号(水戸街道)が幹線道路で、それと並行に常磐自動車道が走っている。土浦市内には土浦北IC、付近には桜土浦ICがあり交通の拠点になっている。今後、圏央道や牛久土浦バイパスが供用されることで、土浦の自動車交通に変化が起こる可能性があり得る。

### 2.5.2 バス

昨今の自動車の普及等により、図9より、土浦市内を運行する路線バスの利用者が減少していることがわかる。それに伴い、路線バスの減便・廃止も発生している現状がある。さらに土浦市の場合、高齢化問題が深刻で、自動車を運転できない高齢者などにみられる交通弱者問題が深刻である。

NPO 法人まちづくり活性化土浦が主体となって、平成19年から「キララちゃん」が土浦駅西口を中心に、北部を回る「市民会館循環」・南西部を回る「市役所循環」・南東部を回る「霞ヶ浦循環」の3路線を展開している。利用料金は、大人で100円と非常に安く、地域通貨キララを用いた地元協賛店との連携サービスを行っていることから、土浦駅周辺の活性化が目的であると考えられる。事業費の不足は行政からの支援で補助を行っているが、自立した運営を目標にしている。図10より「キララちゃん」の利用者数が増加傾向にあることがわかる。

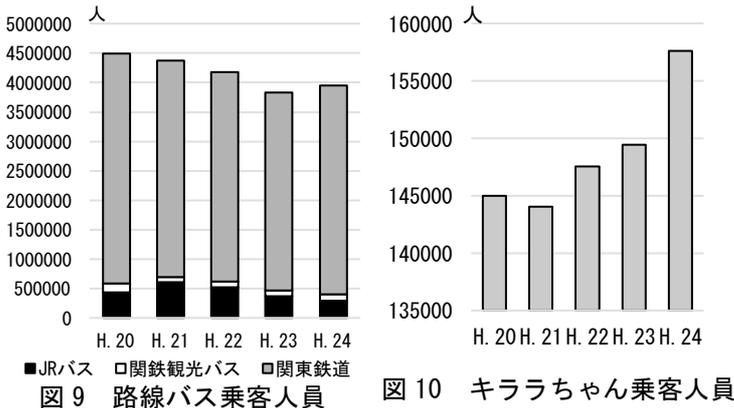


図9 路線バス乗客人員

図10 キララちゃん乗客人員

新治地区で平成23年10月から導入されたが、コミュニティバスの事業費の問題等により、平成26年3月31日で運行が廃止となってしまった。これにより、新治地区の公共交通が不便となってしまっていると考えられる。

### 2.5.3 鉄道

土浦市内にはJR常磐線荒川沖駅・土浦駅・神立駅の3駅がある。図11より、これら3駅の1日平均乗車人員は減少傾向にある。また、常磐線が東京駅まで乗り入れることにより、東京へのアクセスの利便性が向上するため、利用が増える可能性がある。

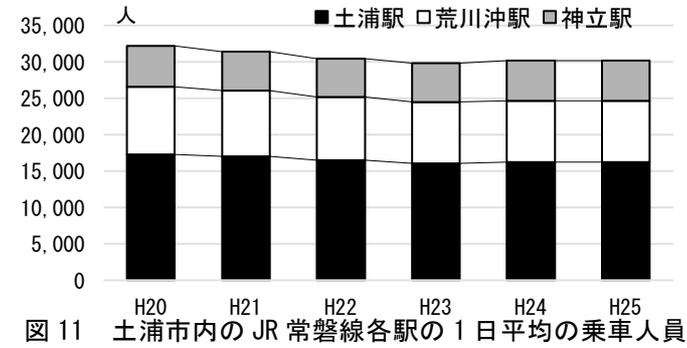


図11 土浦市内のJR常磐線各駅の1日平均の乗車人員

## 2.6 観光

図12に示されるように、土浦市の平成24年の月別観光入込客数(延べ人数)をみると、4月、8月、10月が他の月と比較して、観光客数が多くなっている。4月には土浦桜まつり、8月には土浦キララまつり、10月には土浦全国花火競技大会といった大きなイベントが開催されるため、観光客数が多くなっている。しかし、他にもイベントは開催されているにもかかわらず、上記のイベントを除くと以外で観光客数が伸びていないのが現状である。土浦市には、図13に示されるように、一部の観光資源(点)にアクセスするための公共交通が整備されていない現状がある。

土浦市には、多くの自然資源がある。新治地区には小町の里や朝日峠展望公園があり、景色を楽しむことができる。土浦城址・城下町では、亀城公園の桜やスイレン、また真鍋小学校では、県の天然記念物にも指定されているソメイヨシノを見ることができる。荒川沖の霞ヶ浦の湖岸には、霞ヶ浦総合公園があり、市制50周年を記念して建てられたオランダ型の風車にある展望台から、霞ヶ浦アサザなどの水生植物を一望することができる。霞ヶ浦は全国2位の大きさを誇っている。また、霞ヶ浦は土浦市民にとって身近なものであると考えられる。霞ヶ浦の活用することが重要であるのではないだろうか。土浦市には以上で述べてきたように自然資源が多く存在するため、包括的な活用の必要性が課題である。観光資源を活かしきれていないことが課題として挙げられる。

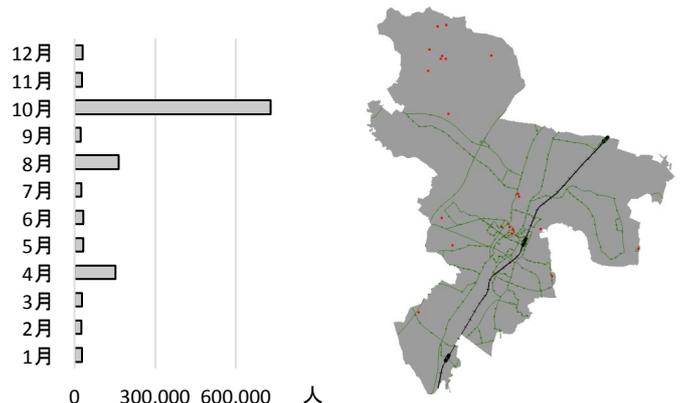


図12 月別入込客数 (H.24)

図13 公共交通と観光資源の分布

## 2.7 文化・教育

土浦市には様々な文化施設がある。例えば、土浦市立博物館は、亀城公園に隣接する博物館である。「霞ヶ浦に育まれた人々のくらし」をテーマに、季節ごとに展示品を入れ替え、土浦の歴史や文化を学習することができる。亀城プラザは、文化ホール・市民ホール・学習室などが備えてあり、施設利用料を支払うことで、利用することができる。また、ワンコインレッスン等が開催されている。

図14で、土浦市民が増やしてほしいと思っている施設のランキングを示す。図14より、図書館が第1位になっていることが読み取れる。なお、土浦駅前には新たな図書館が平成29年度に完成する予定である。また、図15・図16は、土浦市に通勤・通学者の流入と流出の割合を示したものであり、市外からの流入が多いことがわかる。図書館は文化的情報の発信源になりうると考えられるため、通勤・通学者に図書館・文化的施設を利用してもらうことで、市外の人に土浦の文化を発信するよい機会になるのではないかと考えられる。もちろん市民に利用してもらうことは大切で、このような施設をいかに利用してもらうかが課題になってくると考えられる。

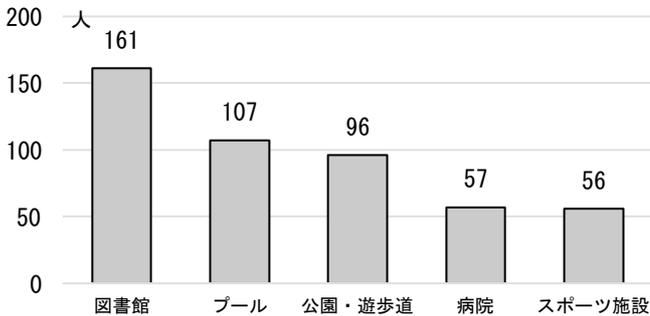


図14 土浦市にあつたらよいと思う施設または充実してほしい施設

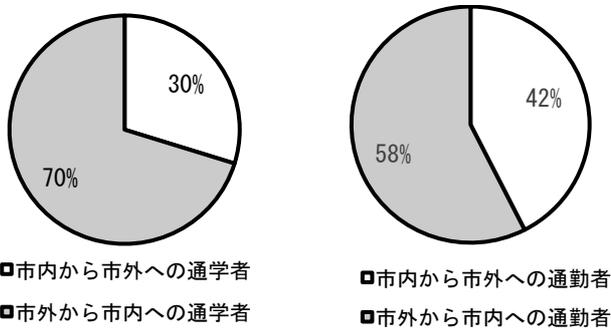


図15 通学者の流入・流出率 図16 通勤者の流入・流出率

## 2.8 医療

図17で、健康保険給付額の推移について示しており、これより、年々保険金給付額が増えていることを示している。今後、少子高齢化問題が深刻になる中で、保険金の問題は財政面でも大きな課題になってくる。図18・図19でそれぞれ一般診療所の推移と、市内8つの病院の病床数の推移について示しており、病床数及び診療所数の両方の項目について減少していることが読み取れる。今後、医療機関で十分な治療を受けられない可能性がでてくることは大きな問題であると考えられる。図20には、地図上での病院及び診療所(点)の分布を示しており、バス停(線上)近くや駅周辺に立地していることがわかる。仮に、医療機関の数が減ることはなかったとしても、バスの本数が少ない地区もあり、高齢化による交通弱者の増加が起こる可能性がある。十分な医療を受けることができない人が増える可能性があることは大きな課題である。今まで病院のなかったおおよそ野地区に病院が移転してくることによって医療体制や周辺の土地利用が変化することが予想される。また、今後医療費の増加は避けられないことが予想されるため、高齢者の健康を保つことが重要である。

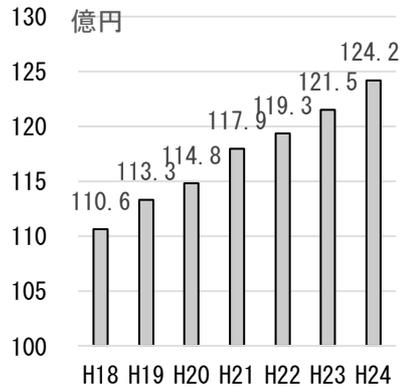


図17 国民保健給付費用額の推移

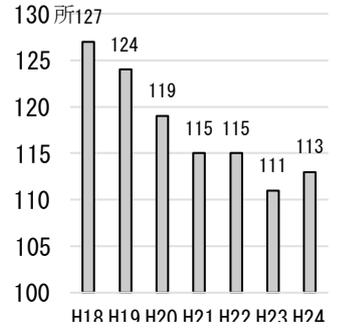


図18 一般診療所数の推移

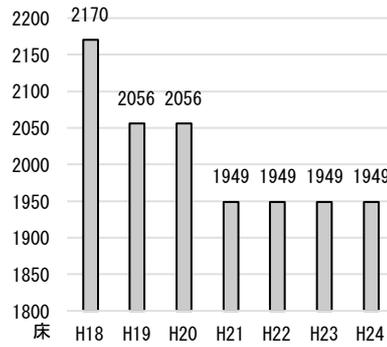


図19 病床数の推移

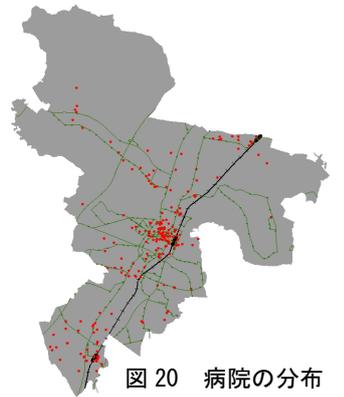


図20 病院の分布

## 2.9 防犯

図21に示されるように、土浦市の1,000人当たり犯罪認知件数は減少傾向であることが分かる。だが、平成26年の土浦市の1,000人当たり犯罪認知件数は18.54(件/1,000人)であり、茨城県の平均の11.95(件/1,000人)である。これは茨城県内の市町村別で、最も高く、決して好ましい状況であるとはいえない。

一方で、土浦市内では自主防犯活動が行われている。約7,000人(平成26年3月現在)の住民による防犯ボランティア活動であり、泥棒などが近隣住民に見られたり、声を掛けられたりすることで犯行を諦めた割合が高いという調査結果を逆手にとり、「地域の目は最大の武器」として、犯罪をしにくい環境を作ることを目的としている活動である。このような活動を通して、犯罪の少ない安心・安全なまちを目指す必要があると考えられる。

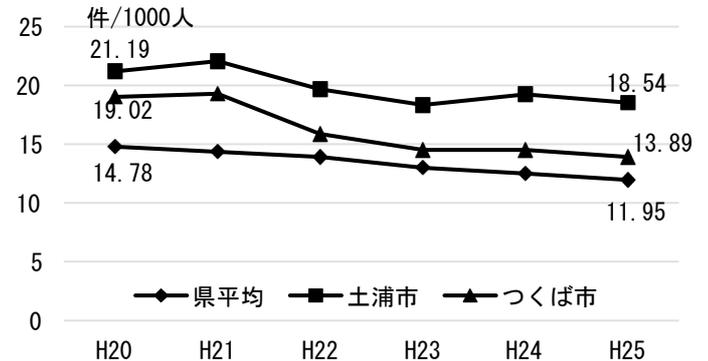


図21 1,000人当たり犯罪認知件数

## 2.10 地区別現状

### 2.10.1 中央地区

商店の衰退が見られ、土浦駅周辺の商店街ではシャッターが閉まっている店舗が多数見受けられ、モール505でも空き店舗が見受けられた。まちかど蔵や亀城公園など歴史的街並みなど多数の観光資源が存在する。また、土浦駅前に市役所の移転と図書館の新設が予定されているため、町の新たな拠点となる可能性がある。

## 2.10.2 荒川沖地区

荒川沖駅前には、バスのロータリーが整備されており、つくばセンター、土浦駅行きのバスのほか、あみプレミアム・アウトレットへの直通バスの発着駅になっている。ロータリーには路上駐車している自動車が多数見受けられた。駅周辺と学園東大通り沿いには大型店舗が存在する。付近の桜土浦ICが存在し、その周辺には土浦市公設地方卸売市場等があり、流通の拠点としての役割を担っていると考えられる。霞ヶ浦の湖岸沿いには霞ヶ浦総合公園や日帰り入浴施設があり、有意義な時間を過ごすことが可能である。

## 2.10.3 神立・おおつ野地区

神立地区は多数の工場が見受けられる。おおつ野では共同病院が移転する予定となっている。また、蓮田が多数見受けられ、土浦市内でもレンコンの出荷が多い地区であり、JAが多く点在していた。

## 2.10.4 新治地区

自然豊かな地区であると感じた。畑地や果樹園も多数見受けられる。JA 土浦サンフレッシュ新治には地元の農産物が販売されており、生産者が分かるので農産物を安心して購入することが可能である。果樹園では柿や栗、ぶどう、なし、いちごなどが栽培されており、フルーツライン沿いには直売所が多数見受けられた。ショッピングセンターの「さん・あびお」があり、地域密着型のショッピングセンターという印象を受けた。小野小町の伝説が残る小町の館や、スカイスポーツを楽しむことができる朝日展望公園など観光名所が多数存在する。土浦北 IC が存在し、その周辺には流通企業の倉庫や工場があり、流通の拠点としての役割を担っていると考えられる。藤沢小学校の近くには藤沢団地があり、低層住宅地が広がっていた。

## 3. 都市像

### 3.1 人口フレーム

今後、人口減少と高齢人口の割合の増加が課題となる。土浦市からの転出を抑え、土浦市への転入を促進し、2010年度を基準としたコーホート要因法による人口予想による2040年の人口は約117,000人よりも、約5%増加を見込んだ約123,000人を目標人口として、図22に示されるような人口を目標として設定する。

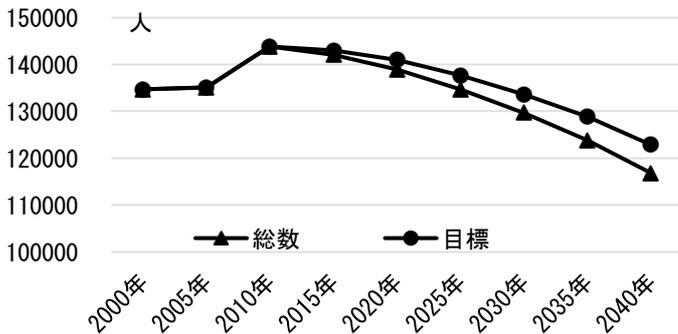


図22 人口フレーム

### 3.2 目標都市像

本実習において、「Happy Turn つちうら」をコンセプトにマスタープランを考えていく。土浦市がHappyに変わるという意味が込められており、これを目標都市像とする。その目標都市像を目指すうえで、現状把握の各分野がHappyになることは、土浦市全体のHappyにつながる考えた。

## 4. 今後の方針

### 4.1 方針

都市像を実現するために、今まで行ってきた現状把握をもとに、各分野がどのようになればHappyになるのかについての今後の方針を考えた。分野ごとに今後の方針を表2に示す。また、地区別の現状把握を踏まえて、地区別の今後の方針を表3に示す。

表2 分野別の今後の方針

分野	今後の方針
農業	農業の魅力あふれる
工業	持続的に成長する
商業	活気あふれる
交通	いつでもどこへでも行ける
観光	また来たくなる
教育・文化	心の豊かさが育まれる
医療	健康に過ごせる
防犯	不安を感じないで生活できる

表3 地区別の今後の方針

地区名	今後の方針
中央	賑わいの創出
荒川沖	有意義な時間を過ごす
神立・おおつ野	産業の活性化
新治	自然資源の活用

### 4.2 これから

- ・ヒアリングによる土浦の実態調査
- ・地区見学を行い、地区別特徴・課題を把握
- ・各分野・地区ごとの具体的な提案の考察

### 参考

- 1) 土浦市『土浦市公式ホームページ』  
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.html>
- 2) ジオテック株式会社『土浦市の地盤』  
[http://www.jiban.co.jp/tips/kihon/ground/municipality/ibaraki/tsuchiura/P08\\_tsuchiura.htm](http://www.jiban.co.jp/tips/kihon/ground/municipality/ibaraki/tsuchiura/P08_tsuchiura.htm)
- 3) 茨城県『茨城県の年齢別人口(茨城県常住人口調査結果) 四半期報』  
<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/nenrei/index.htm>
- 4) 土浦市『統計つちうら平成25年度版』
- 5) 土浦市『土浦市統計書平成23年度版』
- 6) 国立社会保障・人口問題研究所『将来の生残率、純移動率、子ども女性比と0-4歳性比(平成25年3月推計)』  
<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson13/4shihyo/Municipalities.asp>
- 7) 土浦市『土浦市の農業』  
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page001111.html>
- 8) 土浦市『平成22年 土浦市耕作放棄地解消計画』
- 9) 土浦市『土浦市の工業』  
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page001492.html>
- 10) 茨城県『平成24年 観光客動態調査報告』
- 11) 土浦市『平成25年度 土浦市民満足度調査報告書』
- 12) 茨城県警察『市町村別認知件数・犯罪率』  
[http://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a01\\_safety/statistics/shichoson.html](http://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a01_safety/statistics/shichoson.html)  
(最終閲覧:平成26年11月6日)